

2015年3月期第2四半期決算説明会 主なQ&A

- Q 山陽新幹線の断面輸送量が夏以降、徐々に落ちてきているように見えるが、景気後退の影響が出てきているのか。
- A 例えば9月については、三連休が昨年と比べて1回少なかったものの、総じて堅調なご利用が続いたことから対前年100%となったというように、様々な要素があると考えている。下期については、景気後退の懸念や昨年度の消費増税前の駆け込み需要の反動もあり、上期のトレンドがそのまま続くとは想定していないが、このまま右肩下がりとなっていくとは考えていない。下期についても前年を上回る収入想定としており、これを達成するために様々な営業施策の展開などの努力をしていきたい。
- Q ノースゲートビルディング西館の再生に向けた取り組み状況はどうか。
- A 西館のリーシングについては、代官山蔦屋書店を皮切りに、売上目標達成に向けて順次他のテナントとも交渉を進めており、しかるべきタイミングで進捗状況を発表させていただきたいと考えている。また、東館のルクアについては、今年8月に大規模リニューアルを行い、想定通りの効果がでていていると考えているが、これを1つのステップとして、今後の西館との連携をにらんだ取り組みが、着実に進んでいると考えている。
- Q 開業から間もなく40年を迎える山陽新幹線について、今後の修繕や維持更新投資の考え方はどうか。
- A 山陽新幹線については安全確保のために、これまでも計画的に修繕を行ってきたが、経年による一定の劣化もあるため、早目早目に手を打っていく必要があると考えている。当社は、1999年のトンネルでのコンクリート片の落下事故の後に検査をし、補修を行ってきたという経緯もあり、他の会社ほど工事が集中することはないと想定している。しかし、経年に伴い設備の更新は必要になってくるので、集中しないように前広に平準化を図っていく考えであり、その中で大規模修繕引当金についても勉強してまいりたい。
- Q 北陸新幹線の開業により、北陸から関西への旅客需要が減少する可能性について、どのように考えているか。また、これは線路使用料の決定において考慮されるのか。
- A 東京方面へのシフトの可能性はあるものの、鉄道事業者としては、北陸から関西への需要とともに、関西から北陸への需要そして北陸新幹線の需要もしっかり確保していきたいと考えており、そのために営業施策の展開などの工夫の余地があると考えている。なお、線路使用料の決定にあたっては、需要の変化も含めた様々な要素が考慮されるものと考えている。
- Q 中計の修正にあたって、今考えられるプラスマイナスの要因についてどのように考えているのか。また、北陸新幹線開業の影響についてはどのように織り込んでいくのか。
- A 中計の収支見通しに北陸新幹線開業に伴う収入への影響や線路使用料を織り込んでいなかったことから、開業後の来年春に必要な修正を行いたいと考えている。過去にも中計見直しを行ったことがあるが、今回は経営環境が大きく変わった訳ではないので、抜本的見直しを行う訳ではない。鉄道と創造部門において、この2年間の取り組みで利益が出せる体制が整ってきた事業については、それを残りの3年で伸ばしていければと考えており、それらがどの程度修正に寄与できるのかを検討していきたい。また、費用については、北陸新幹線の線路使用料がどの水準になるかが現時点ではわからないため、申し上げられる数字を持ち合わせていない。これまでの2年間の進捗や来年春の北陸新幹線の開業をふまえた上で、アップデートを行ってまいりたい。